

子宮癌の転移性肺腫瘍に対する手術 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: (2021 年 3 月 8 日) ~ 2024 年 3 月 31 日

〔研究課題〕 子宮癌による転移性肺腫瘍の組織学的特徴が生存率に与える影響の究明

〔研究目的〕 子宮癌による転移性肺腫瘍で肺切除術を受けた方の長期予後を追跡調査することで、手術が治療全体にどの程度の影響をもたらしているか解明することが目的です。

〔研究意義〕 転移性肺腫瘍の予後はその原疾患によって異なり、特に子宮癌の転移性肺腫瘍は症例数が非常に限られており、その予後に関する知見は限定的であるのが現状です。子宮癌の病理学的特徴によりその予後を予測することで、最適な治療の選択や生存率の改善に役立つ可能性が考えられます。

〔対象・研究方法〕 1984 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 12 月 31 日の間に 下記の研究機関で子宮癌による転移性肺腫瘍で肺切除術を施行された 20 歳以上の方が対象となります。すでに倫理委員会の承認を受けている先行研究「転移性肺腫瘍に対する肺切除症例データベース作成のための多施設共同コホート研究」で集められたデータを利用して行う研究で、代表研究機関に情報提供されます。

〔研究機関名〕 東京大学医学部、帝京大学医学部、がん研有明病院、慶應義塾大学医学部、埼玉医科大学総合医療センター、千葉県がんセンター、千葉大学医学部、東京医科大学、栃木県立がんセンター、獨協医科大学病院、浜松医科大学、複十字病院、防衛医科大学校、東邦大学医学部、東京医療センター、山形県立中央病院、君津中央病院 日本海総合病院、大阪大学医学部、愛知県がんセンター、東京慈恵会医科大学医学部、函館五稜郭病院

〔個人情報の取り扱い〕 本研究で得られたすべてのデータは匿名化され、代表研究機関である東京大学に情報提供されて解析されます。上記の先行研究終了後にデータセット等を帝京大学臨床研究センターで 10 年保管後に廃棄します。対象患者がデータ使用拒否を申し出た場合、情報は速やかに削除します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 講師 山内良兼

研究分担者: 教授 川村雅文、教授 坂尾幸則、講師 齋藤雄一、助教 出島仁

所属: 医学部外科学講座

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表)